

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770102675
法人名	医療法人社団 青冥会
事業所名	認知症高齢者グループホーム第五若葉荘
所在地	香川県高松市三谷町1643番地1 (電話) 087-888-0202

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年7月18日	評価決定日	平成19年9月19日

## 【情報提供票より】19年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月 4日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	26人	常勤	13人、非常勤 13人、常勤換算 22.9人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,650円	その他の経費(月額)	約 8,000円	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,300円				

### (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	4名	要介護2	8名		
要介護3	7名	要介護4	7名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.7歳	最低	53歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団青冥会 ミタニ藤田病院、松之内歯科医院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「家庭的な雰囲気づくり、楽しい共同生活のなかで、一人ひとりに適した援助をする」との共通理念を持ち、運営しているホームである。建物は田んぼに囲まれた落ち着いた雰囲気の平屋で、3ユニット配置されている。利用者個々の生活を尊重し、支援するよう職員同志の意見を出し合っ、穏やかな態度で接している。職員が、定期的に自筆の便りを家族に送り、ホームでの暮らしぶりを伝え、家族の安心を得る配慮をしている。また、隣接した協力医療機関との連携が確保されていて、緊急時の対応も安心して生活できる体制が整っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、運営理念、ケアサービス、運営体制での分野での改善課題については、管理者・職員が共有できており、改善可能な事項から取り組み、ほぼ改善されつつある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が、全員で自己評価に取り組み、日頃の業務の見直し材料にする効果がみられる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームからサービス状況報告を行い、参加者から助言や地域交流を深めるための提言を受けている。今後、地域の老人会との交流、災害時の地域住民の協力依頼、市との連携の実現等が、運営推進会議の課題である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時、家族が話しやすい雰囲気に対処するよう心がけ、意見、要望などを聞くよう努めている。家族からの意見は、管理者・職員で共有し、対応に取り組み、ホーム運営に活かしている。また、定期的に職員が全員の家族に、暮らしの様子を便りや報告し、家族の不安解消に繋げているが、職員の異動状況も何らかの方法で情報提供することが望ましい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会には加入しており、近所の方がホームへ立ち寄ってくれたりするが、地域との連携は今後の課題である。ホームからも自治会へ働きかけ、連携が深まる取り組みを期待する。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で家庭的な雰囲気づくりを目指し、楽しい共同生活をしながら、個々の利用者に即した支援を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、常勤・非常勤の区別なく、理念が共有されており、管理者と共に日々のケアに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、近所の人が立ち寄ってくれ、祭りの神輿はホームの敷地まで来てくれる等、地域の付き合いはあるが、地域の老人会との交流を望んでいるが実現していない。	○	民生委員を兼務している自治会長に働きかけ、老人会との交流を図れるようお願いしているが、なお一層、地域との交流が増すことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解し、自己評価は職員も参加して行っており、ホームの見直しの機会となっている。また、外部評価の結果の改善点は、前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、会議での意見をサービスに活かしている。より地域に密着した推進会議とするため、メンバーに民生委員の参加を要望する意見が出ており、次回より参加してもらおうこととなっている。	○	評価の取り組みも報告し、意見交換をして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には運営推進会議での意見交換は行っているが、事業所としては、今後、市の保健師を講師とした家族介護教室の開催や、ホーム開放、訪問、ボランティアを通じて地域との関係を深め、市町村との連携を深める構想はあるが、実現していない。	○	市との連携を深めるため、事業所の構想実現に向けて、取りかかれる事項からの取り組みを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月ごとに、居室担当者が暮らしぶりやレクリエーションの参加状況、金銭出納帳のコピー等を家族に送っているが、職員の異動状況の報告が十分できていない。	○	家族にとって、馴染みの職員の異動は気にかかると思うので、若葉だよりに掲載する等、検討し、家族との絆をなお一層深めて欲しい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満、苦情などを言いやすい雰囲気づくりに心がけている。また、意見箱も備えている。苦情があった場合は、納得が得られるよう対応に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での経験者と新採用者のバランス等により、管理者・職員の異動は比較的多いが、異動時は利用者へのダメージを防ぐよう努めている。	○	異動時にダメージを少なくするよう配慮は行われているようだが、利用者にとって、ホームの管理者や職員との馴染みの関係は、穏やかな生活を過ごすために大切であり、職員の異動を最小限に留められる工夫が期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には自主参加し、伝達をしているが、年間計画は周知されていない。また、外部研修への参加は、今のところ計画されていない。	○	法人内の年間研修計画を周知することにより、職員の受講計画に役立つと思われる。また、職員の一層の高齢者認知症ケア向上のために、計画的な外部研修受講が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人関係の職員との交流はあるが、他の同業者との交流はない。管理者や職員は、質の向上にも繋げるために、同業者との交流の機会を望んでいる。	○	管理者や職員がサービスの向上に役立てられるよう、他のホームの同業者との交流に向け、積極的な働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人の相談員からサービス希望の連絡を受け、職員が出向き、面接後、利用者・家族がホームの見学を行っている。そうすることで、職員とも交流し、できるだけ納得してもらい、サービス開始に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者として見習う場面もあり、共に支えあいながら、生活している。感謝されることにより、職員は元気ももたらして、良い関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴のファイル等を参考に、希望や意向を把握し、支援をスタートしている。その後は、日頃の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意向を聞きながら、関係する職員で意見交換を行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、介護計画に基づく介護の概要を記録し、3か月ごとの見直しを行っている、また、状態変化時は、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護予防認知症対応型生活介護以外のサービス指定は受けていないが、要望に応じ、同一法人のサービス等を利用し、柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある利用者には、ホームの職員が受診時の介助を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えた場合、本人・家族の要望を大切に、ホームでの生活を希望する利用者には、関係者で十分検討した上で、可能な限りホームで過ごしている。最終の期間は協力病院での支援を受け、馴染みの職員が度々訪れるようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドやプライバシーを、傷つけるような態度や言葉かけは見られない。記録等に関する個人情報の取扱いは、職員間で十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールはあるが、基本的には利用者のペースを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3ユニットの食事を一か所で、利用者のできることを活かしながら、専属の職員が準備し、各ユニットへ配膳している。各ユニットでは、職員が利用者を見守りながら、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特浴と一般浴の日を基本的には決めているが、利用者の希望や状態によって、時間帯や曜日をできるだけ合わせている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみ・玄関の掃除・調理の手伝い等を自分の役割にしている利用者や、趣味のほり絵・折り紙・観葉植物の世話等、個々の張り合いや楽しみを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的なホーム周辺の散歩、週一度の買い物、季節の花見等のレクリエーション外出と、戸外に出かける支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的には、日中玄関には鍵をかけない方針で、開閉時にチャイムが鳴る。帰宅願望が強く、何度も出かけようとする利用者に対しては、職員同志で声をかけ合っで見守りをしている。どうしても対応しきれない時間のみ鍵をかけるが、職員は施錠の弊害を理解しており、極力、短時間に留めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力による定期的な避難訓練、消火器の取り扱い訓練等を行っている。近接した同一法人施設との応援体制の確立は取れているが、今後、運営推進会議において、地域の協力を働きかけることにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士がカロリー計算した献立に基づいて、利用者の状態に応じて調理され、個々の食事・水分の摂取量を把握し、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体に自然光を取り入れるよう工夫された建物であり、さわやかな空気が伝わってくる玄関・ホールには、季節の花や飾りつけがされ、居心地の良い共用空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのクローゼットや整理ダンスに衣類や日用品は収納され、使い慣れた好みの物を置いている。また、写真・人形・はり絵・観葉植物等を飾り、個々に、居心地良く過ごせる居室づくりの支援がされている。		